

CUCM の Meet-Me電話会議の設定方法

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[コンファレンスの利用方法](#)

[ミーティング番号の利用方法](#)

[アドホック会議のための \[Conference\] ソフトキーの使用](#)

[\[Join\] ソフトキーを使用した会議](#)

[アドホック会議の設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

この資料は方法の Meet-Me電話会議および詳細を設定するのに使用されるステップを Cisco Unified Communications Manager (CUCM) でそれを 11.X 使用する記述したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることを推奨しています。

- Cisco 88XX IP Phone を使用する場合、電話テンプレートの Meet-Me電話会議 機能を設定するようにして下さい。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Unified CallManager 11.X
- Cisco IP フォン 69XX、88XX

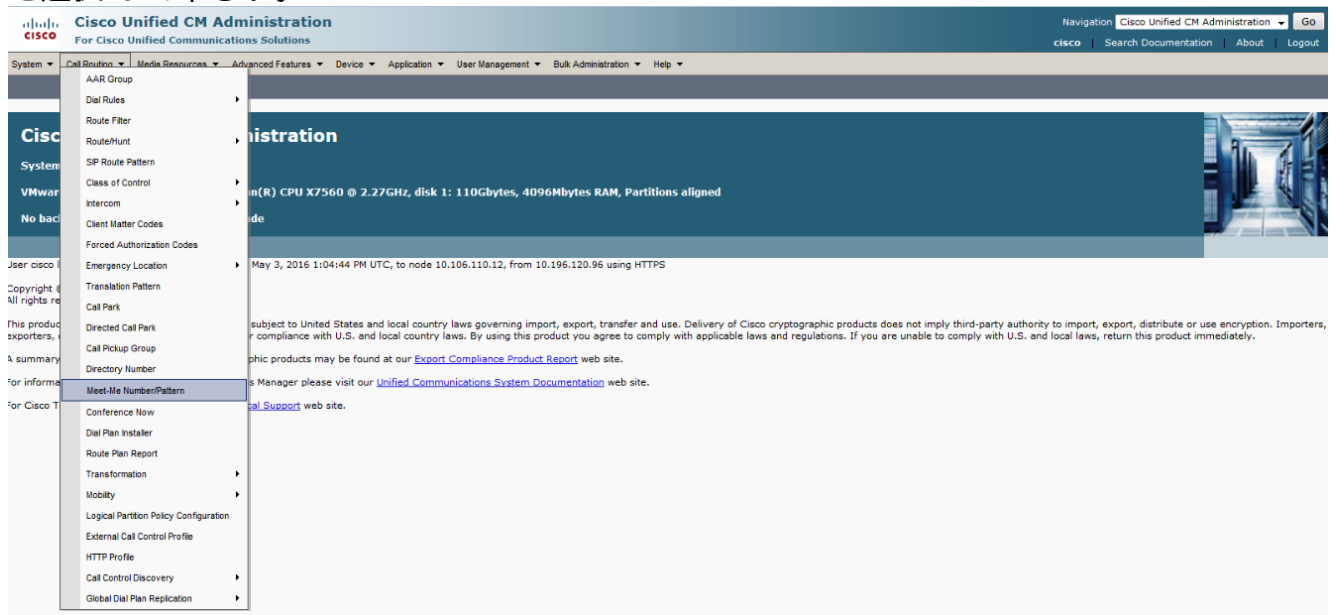
このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

設定

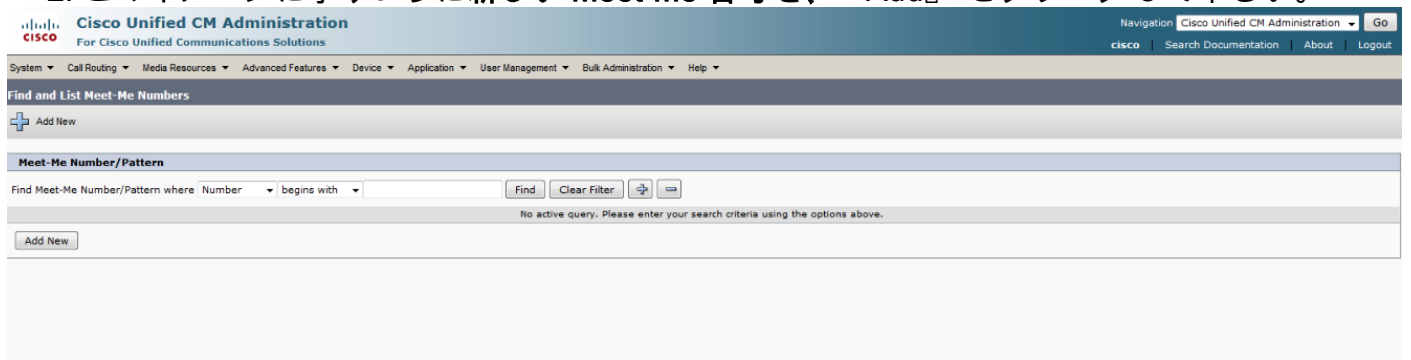
Cisco CallManager の設定

次の手順を実行します。

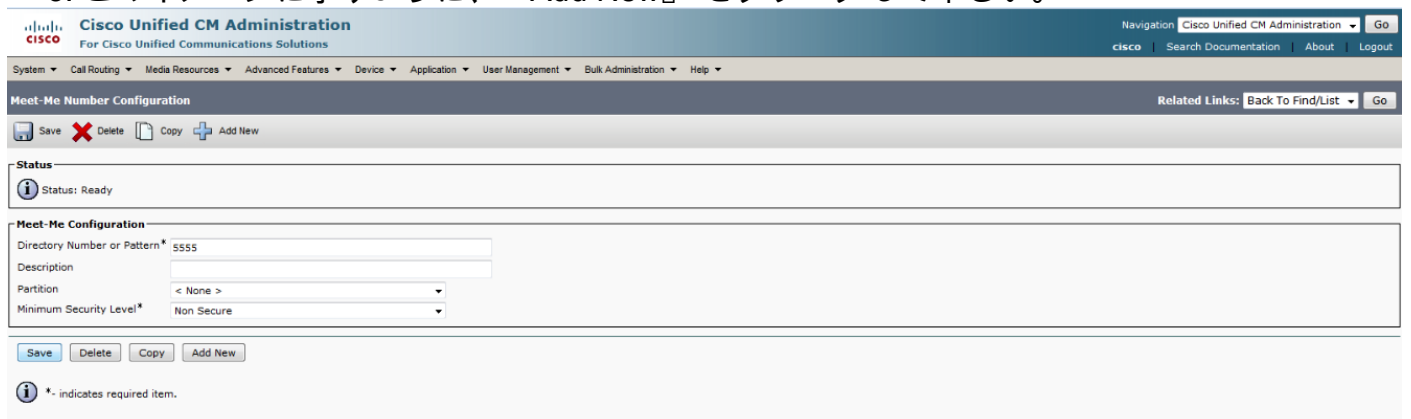
1. CUCM 管理 ページでは、呼ルーティングにナビゲートし、番号/パターンを『Meet-Me』を選択して下さい。



2. このイメージに示すように新しい Meet-Me 番号を、『Add』をクリックして下さい。



1. 電話番号またはパターンを設定します。
2. これらの番号は、他のいずれの IP Phone、CTI ポート、ルート ポイント、およびパイロット ポイントには割り当てないでください。この番号は、一意である必要があります。
3. このイメージに示すように、『Add New』をクリックして下さい。



注: CUCM ソフトウェア コンファレンスブリッジは G.711 だけ a-law および G.711 u-law をサポートし、G.729 のような他のどのコーデックも理解しません。外部の発信者が G.711 以外のコーデックを使用している場合は、会議に追加できません。G.729 として発信されるコールを G.711 を使用する電話に接続するには、トランスコーダを使用する必要

があります。

コンファレンスの利用方法

ミーティング番号の使用法

ミーティング機能を使用するには、オフフック状態にし、電話の [Meet-Me] ボタンを押します。この [Meet-Me] を表示するには、[More] ソフトキーを 1 回押します。[Meet-Me] ボタンを押してから、参加する会議の会議番号をダイヤルします。同じ Meet-Me 番号にダイヤルする皆は会議と一緒に加入します

たとえば、何人かの個人電話会議が 17:00 時間にあることをおよび次の 30 分の間会議 番号 5555 を使用することにすることにします。17:00、Meet-Me 番号 5555 この会議ダイヤルに加入する必要があるすべての個人。いずれの参加者も会議への追加を待機する必要はありません。また、会議からドロップアウトする参加者があっても、会議ブリッジは引き続き起動されています。

アドホック会議の利用形態

ミーティング会議と異なり、アドホック会議はイニシエータによって開始され、会議のイニシエータだけが会議に参加者を追加できます。

アドホック会議ブリッジの開始

アドホック会議を開始する方法は 2 とおりあります。

- 通話を保留にし、別の参加者にダイヤルして、追加の参加者を会議に加えます。
- 確立された コールに選り抜きの使用によって加入し、ソフトキーに加入して下さい

アドホック会議のための [Conference] ソフトキーの使用

会議コントローラは、アドホック会議を制御します。アドホック会議を始めるとき、CUCM は会議 コントローラと考慮します。アドホック会議内では、会議コントローラだけが参加者を会議に追加できます。会議デバイス上で十分なストリームが使用可能な場合、会議コントローラは、アドホック会議の対象として指定されている参加者を、最大数まで会議に追加できます。

最大アドホック会議 サービスパラメータ設定の使用によって CUCM サービスパラメータ 設定の下で CUCM 管理のアドホック会議のための参加要素の最大数を設定して下さい。 このクラスタワイド サービス パラメータのデフォルト値は 4 です。会議の参加者が 4 人を超える場合は、このサービス パラメータのデフォルト値を変更して、すべての参加者が会議に参加できるようにする必要があります。CUCM は倍数を、デバイスの各ライン アピアランスの同時アド ホックな会議サポートします。

たとえば、電話 2001 から 2002 をダイヤルします。これらの電話の会話に 2003 を追加する必要があるとします。2001 は、会議ボタン [confrn] を押し、2003 をダイヤルします。2003 が応答すると [confrn] ボタンを再度押して、会議に 2002 および 2003 を追加します。

[Join] ソフトキーを使用した会議

ユーザは、[Select] ソフトキーおよび [Join] ソフトキーを使用してアドホック会議を開始します。通話を確立する間に、ユーザは、[Select] ソフトキー、[Join] ソフトキーの順に選択して会議参加

者を選択します。この結果、会議はアドホック会議になります。15 個までの確立済みの通話をアドホック会議に追加できるため、参加者の合計は 16 人までになります。CUCM は会議ソフトウェア方式の使用によって確立される 1 つとアドホック会議を同じ方法扱います。

注: アドホック会議内で唯一の参加者になることはできません。

注: いずれかの会議機能を使用するには、あらかじめ、ハードウェアまたはソフトウェアの使用可能な会議リソースが存在している必要があります。デフォルトで、CUCM に設定される使用できるソフトウェア コンファレンスブリッジがあります。ハードウェア会議ブリッジを設定するためには、「[Cisco CallManager と Catalyst 6000 WS-X6608 ポートを使用するハードウェア コンファレンスブリッジの設定と使用](#)」を参照してください。

シスコ ハードウェア会議ブリッジでは、Cisco Catalyst 4000 と 6000 音声ゲートウェイ モジュールおよび次の会議セッションをサポートしています。

- Cisco Catalyst 6000 上 : 1 つの G.711 会議内で使用可能なストリームは 32 個です。各会議の参加者が 3 人であれば会議セッションは 10 個、32 人の参加者であれば会議セッションは 1 個です。
- Cisco Catalyst 4000 上 : 1 つの G.711 会議内で許可される会議参加者は 24 人に限られます。参加者がそれぞれ 6 人であれば、会議は最大 4 個です。
- シスコ ソフトウェア会議ブリッジの場合 : オーディオストリームの最大数は 128 です。ストリームが 128 個あると、ソフトウェア会議メディア リソースでは、単一の会議で 128 人のユーザに対応できます。ソフトウェア会議メディア リソースでは、会議あたりのユーザが 3 人であれば、最大 42 個まで会議リソースを処理することもできます。

注: 単一 ソフトウェア コンファレンスブリッジが CUCM サービスと同じサーバで動作できるが Cisco はこの設定に対して強く推奨します。CUCM と同じサーバのコンファレンスブリッジを実行する場合、サービスは参加要素全員が Meet-Me ログイン されれば、そして高いテレフォニー 使用方法があれば不利に Cisco Unified CallManager のパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションを別のサーバにインストールすることを検討しなければならない場合があります。

アドホック会議の設定

CUCM 管理は外部発信者が間、) 通話料の不正の防止を許可するために Clusterwide サービスパラメータを、**ドロップする アドホック会議**、提供します (ところ会議からの内部 会議 コントローラ切断。このサービス パラメータ設定は、アドホック会議をドロップする条件を指定します。

[Drop Ad Hoc Conference] パラメータを設定するには、次の手順を実行します。

1. CUCM 管理から、Service > Service Parameters の順に選択して下さい。サーバをサーバドロップダウン リスト ボックスから選択し、サービスドロップダウン リスト ボックスから CUCM を選択して下さい。
2. ウィンドウの [Clusterwide Parameters (Features - General)] 領域にある [Drop Ad Hoc Conference] ドロップダウン リスト ボックスから次のいずれかのオプションを選択します。
 - [Never] : 会議はドロップされません (これがデフォルトのオプションです)。
 - [When No OnNet Parties Remain in the Conference] : ネットワーク上の最後の会議参加者

が電話を切るか、会議からドロップアウトすると、システムは、アクティブな会議をドロップします。CUCM は会議に割り当てられるすべてのリソースを開放します。

- [When Conference Controller Leaves] : アクティブな会議は、プライマリ コントローラ (会議作成者) が電話を切ると終了されます。CUCM は会議に割り当てられるすべてのリソースを開放します。

3. [Update] をクリックします。

注: CUCM は複数のオプションをサポートしません; つまり、すべての会議は、選択するオプションに応じて同じ機能をサポートします。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

電話会議を試みると、次のエラー メッセージが表示されます。「超過する」パーティの最大数。

Error: 「超過する」パーティの最大数

この問題を解決するには、1 本の回線で保持できる現在の通話数を多くする必要があります。

1. システム > Service > Service Parameters へのナビゲート。
2. サーバを選択します。
3. サービスとして CUCM を選択して下さい。
4. [Advanced] をクリックします。
5. [Clusterwide Parameters (Service)] を選択します。
6. [Maximum Ad Hoc Conference*] パラメータで最大数を変更します。